

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年9月4日 (2014.9.4)

【公表番号】特表2013-536020(P2013-536020A)
 【公表日】平成25年9月19日 (2013.9.19)
 【年通号数】公開・登録公報2013-051
 【出願番号】特願2013-524103(P2013-524103)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/00 3 1 4

【手続補正書】
 【提出日】平成26年7月18日 (2014.7.18)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

コイル状の延長装置 1 3 0 は、全体として、インゼクターポンプ 1 2 0 から血管アクセス器具 1 1 2 までに注入物を送出するように構成された可撓性または半可撓性のポリマー製の管からなる。延長装置 1 3 0 は、下流側の装置 1 1 2 または装置 1 4 0 に延長装置 1 3 0 を接続するための第 1 のカプラを含む。延長装置 1 3 0 は、延長装置 1 3 0 をインゼクターポンプ 1 2 0 に接続するための第 2 のカプラ 1 3 4 も含む。延長装置 1 3 0 のコイル状の構成は、全体として、注入処置中のセット 1 3 0 の望ましくないねじれ (kinkking) または閉塞を防ぐ。しかし、延長装置 1 3 0 が、血管アクセス器具 1 1 2 を介してインゼクターポンプ 1 2 0 から患者までに注入物を効率的に送出可能であるいかなる構成も含んでもよいことを当業者は理解されるであろう。いくつかの実施例では、延長装置 1 3 0 は、シリンジと血管アクセス器具との間に連結され、それによって、注入物が患者に手で注入される。他の実施例では、注入システムは、本発明に従って、シリンジおよび血管アクセス器具のみからなるものでもよい。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 6】

図 1 8 ~ 図 1 9 は、いくつかの実施例に従った、楔形の延長部 6 3 6 および 6 4 6 を有する他の細長い孔 6 3 0 および 6 4 0 を示す。具体的には、図 1 8 は、患者への挿入を容易にする実質的に涙滴形状を有する孔 6 3 0 を示す。この孔は細長く、一般に幅 6 3 4 より大きい長さ 6 3 6 および 6 3 2 を有する。孔 6 3 0 は、主な孔部分 6 3 2 と、楔形の延長部 6 3 6 とを含み、主本体部分 6 3 2 から離れた点 6 3 8 に向かって主本体部分 6 3 2 から延在する 2 つのまっすぐな面またはややまっすぐな (semi-straight) 面 6 3 5 および 6 3 7 を含む。いくつかの実施例では、孔 6 3 0 は、楔形の延長部の点 6 3 8 が孔の基端側にあるような向きにされる。カテーテルが患者の皮膚を通して挿入されるとき、皮膚は、自然に孔の中に沈むことができる。カテーテルが進められるにつれて、まっすぐな面 6 3 5 および 6 3 7 は、次第に皮膚を孔 6 3 0 から押し出し、孔の基端側が挿入の方向と直角をなす大きな平坦な面を備える場合に発生しうる皮膚の引っ張りを防

止する。図 19 は、いくつかの実施例に従った、丸い楔形の延長部 646 と、主な孔部分 644 と、孔の幅とを有する別の涙滴形状の孔 640 を示す。丸い形の延長部 646 は、孔 640 の全長 644 および 646 を減少させ、カテーテル本体の強度を増大させる。